

同窓会ホームページを開設!!

卒業生の皆さまに神戸大学附属学校園同窓会の活動を広く知っていただくための手段として、同窓会発足当初からホームページの開設に向けた準備を進めていましたが、この度、pp 無事開設にいたりました！

URL：<https://ku-fuzoku-reunion.org/>

ホームページの開設にあたっては、複数の Web 制作会社から情報を収集したうえで、デザイン力と実績に長けた株式会社フィールドさまに委託することにしました。

「卒業アルバムをめくるような懐かしい気持ちになれるホームページにしたい」といった抽象的な依頼をしてしまっていたのですが、緑を基調にした温かみのあるホームページをデザインしていただきました。メインビジュアルは、校舎の写真や六甲山・明石海峡をイメージしたイラストを配置し、母校を懐かしい気持ちで思い出せるように仕上げてくださりました。また、方眼紙やノートの罫線をデザインに織り交ぜ、学校で過ごした時間を想起するようなページにいただきました。

洗練されたデザインのホームページを開設できたので、今後は情報発信ツールとして積極的に活用し、卒業生の繋がりの輪が広がっていくようにしたいと思います。

少しずつ掲載内容を拡充していく予定ですので、ぜひ定期的にアクセスし、ごゆっくりお楽しみください。

▼ 広報誌ページ



▼ アルバムページ



株式会社フィールド

事業内容：グラフィックデザイン、ホームページ制作 など

本社所在地：京都市下京区四条通室町東入ル函谷鉾町 79
ヤサカ四条丸ビル 5F

会社 HP：<https://www.fieldcorp.jp/>

▼ TOP ページ



第14回 兔原祭&ホームカミングデイが開催される！

5月15日(金)、16日(土)に第14回兔原祭が開催されました。両日とも気持ちの良い天気のもとで、在校生がステージやアリーナ、教室での企画で躍動し、学校の魅力が存分に詰め込まれた2日間となりました。

また、16日(土)には同窓会で教室を一部屋借り、ホームカミングで企画を実施しました。中等12回生を中心に多くの卒業生に足を運んでいただいたほか、在校生も教室に展示していた卒業アルバムを興味津々でめくっている様子が見られ、心温まる空間になりました。ご協力いただいた卒業生の皆さん、ありがとうございました。



来年も開催しますので、お誘いあわせのうえご参加ください！

実行委員長 富田真央さん(中等14回生)より

第14回兔原祭実行委員長の富田真央です。兔原祭は楽しんでいただけたでしょうか？今年の兔原祭では新しく様々な取り組みを行いました。友達を外部から気軽に呼ぶことができるお友達招待券や、希望者がステージで歌を歌い競うのど自慢など、全校生徒が楽しむことが出来るたくさんの工夫がなされました。そして両日とも晴天で、気持ちの良い2日間を過ごすことが出来ました。今までで一番楽しかったよなどと声をかけてもらうこともあり、頑張ってた良かったと思います。過去の先輩達が築き上げてきた伝統を守りながら、第14回ならではのアイデアを詰め込んだ兔原祭は素晴らしいものになったと実感しました。兔原祭の成功は、実行委員や全校生徒のみならず、先生方や保護者の方々のサポートがあったからこそだと、私は思います。本当にありがとうございます。

この先も兔原祭は進化し続けることでしょう。そんな兔原祭も来年でとうとう15回目になります。一つの節目となる第15回兔原祭もご期待ください。



中等の「礎」

4 月に 18 回生を迎え、再来年には節目の 20 周年となる中等教育学校。今となっては「黎明期」「移行期」という表現を聞かなくなりましたが、附属学校園の改変から新たな設立には多くの方のご尽力がありました。そんな母校の礎を築いた方々にスポットライトを当て、中等の歴史を改めて振り返りたいと思います。

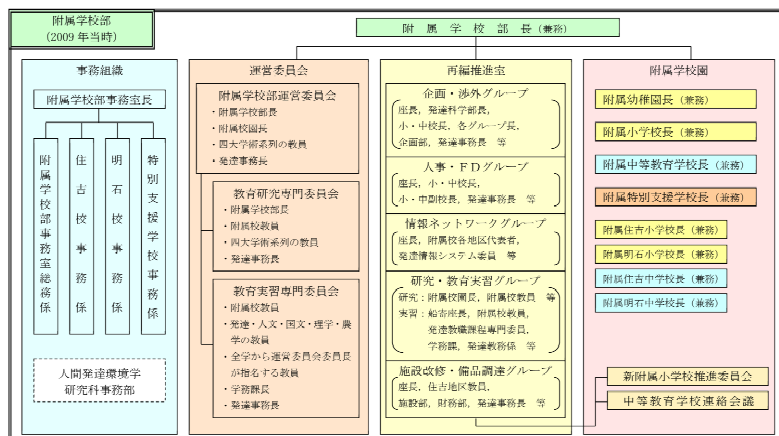
No.01 **前川 浩一**さん [前 附属学校部 事務長]

皆さま、初めまして。神戸大学附属学校部・事務長の前川浩一と申します（2026 年 3 月現在）。本誌への寄稿について小黒会長から依頼をいただいた際は、神戸大学附属中等教育学校の卒業生でもない、教員でもない、大学の事務職員で本当にいいのかなと思いました。しかしながら、本校設立の際のエピソードを紹介してほしいとのことで、今となっては当職にしか書けないこともあるかもしれないと考えました。

また、小黑会長が本校1回生の生徒会執行部として、「附属学校再編に関する話を聞きたい」と、当時鶴甲第二キャンパスにあった附属学校部事務室を訪問してくれました。その時の生徒会の皆さんが、「この学校に入ってよかった!」と声をそろえて言ってくれたことは、再編を担当していた当職にとっては本当に嬉しい言葉で、とても勇気づけられたことを今でもはっきりと覚えています。そのような縁もあって、今回の寄稿を引き受けさせて

いただきました。

まずは、附属学校部という組織について説明させていただきます。2009年4月、神戸大学附属学校園の再編が始まり、全ての附属学校園は発達科学部附属から神戸大学附属となると同時に、附属学校部が設置されました。右図は、附属学校部発足当時の組織図です。



「神戸大学附属学校部規則」には
「附属学校部は、神戸大学の附属学

校部の運営を統括するとともに、本学における研究科等と附属学校との連携を推進することを目的とする。」と明記されています。公立学校で言えば教育委員会に近い役割で、実際は附属学校部事務部総務係がその重責を担っています。

続いて、再編当時のエピソードを一つ。当時はいくつかの専門グループにおいて、カリキュラムや教員人事など様々な課題を検討していました。その中の「進学・選抜方法等専門グループ」に選考委員会を設けて、2007年10月から、制服、体操服、カバンの選考を行っていました。業者への説明会を開催し、サンプル品にエンブレムやロゴマークを反映した見本を作成いただきました。そうして各業者から提案いただいた制服10点、体操服8点、カバン6点から選定することになりました。

2008 年 7 月 12 日（土）、夏の暑い住吉小学校の体育館で、見本の展示を見て、各業者のプレゼンテーションを聞きながら、制服とカバンを身に着けて通学路を通う児童や体操服を着て校庭で運動する生



附属学校園改変に関する
日本経済新聞の記事

Ⅱ 新小学校及び中等教育学校の制服等について
制服、体操服及びカバンについては、昨年10月より検討を重ね、業者への説明会、書類選考及び業者によるプレゼンテーションを経て、7月12日（土）開催の制服選考委員会において決定いたしました。選考にあたっては、各校の教育目標等を踏まえた神戸大学の附属校らしさ、児童生徒と保護者にとっての着心地や機能性（成長期に相応しく清潔さを保ちやすいこと等）に配慮したデザイン、素材及び扱いやすさ等を基準として、委員15名（大学、住吉小・中学校及び明石小・中学校各5名）の合議により決定いたしました。

決定した制服、体操服及びカバンは次のとおりです。



神戸大学附属学校再編推進室通信
第14号（2008.9.8）

徒を思い浮かべ、児童生徒や保護者の皆さんが新しい制服を喜んでくれるといいなあとと思いながら審査したことを今でも覚えています。日本教育新聞に掲載された記事と当時の附属学校再編推進室通信（抜粋）を掲載しますので、ご参照ください。余談ですが、他校の制服は判別できない当職でも自分たちで選んだ本校の制服は見分

けがつかますし、街でこの制服を着た子どもを見かけると、心の中で「がんばれ！」と応援しています。

最後に、当職は2026年4月1日付けの人事異動により、附属学校部を離れることになりました。再編当時の主任から係長、そして今は事務長として計10年3カ月もの長きにわたり附属学校園の業務に従事できたことは、当職の神戸大学人生においてかけがえのない財産です。先生方をはじめ、在籍園児児童生徒、卒業生及び保護者の皆さまに深く感謝申し上げるとともに、神戸大学附属学校園の益々の発展と同窓生の方々の一層のご活躍を祈念して、結びとさせていただきます。

卒業生だより

井筒 理沙子さん [中等8回生]

卒業生のみなさま、こんにちは。8回生の井筒理沙子と申します。皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は中等3年生までコーラス部に所属し、それからは兎原祭の実行委員を経験させていただきました。副局長として先輩方と共に運営に携わり、遂に私たちの代の兎原祭！と意気込んでいた年に、新型コロナウイルスの影響で中止となってしまいました。修学旅行も中止になってしまい、同級生と悔しい思いをしたのは今でも忘れられません。卒業式では、アリーナではなくグラウンドで校歌などを歌ったことは、今となってはよい思い出です。8回生のテーマソングもありましたね。

さて、次に私事ですが近況報告を兼ねて、大学生活と附属での経験とのつながりについてお話させてください。私は現在、京都市立芸術大学の学部を経て、音楽研究科声楽専攻修士1回生として学んでいます。中等生だった頃、「歌うのって楽しい！」という単純な動機から、温かい学年団の先生方に見守っていただきながら音楽大学を志しました。今も音楽を探求できる環境に身を置いて、恐ろしい量の楽譜と共に毎日歌って過ごしています。月曜日はフランス歌曲、火曜日はレッスン、水曜日はオペラ、木曜日はドイツ歌曲、金曜日はイギリス歌曲を歌う、という充実しすぎている日々です。同級生が就職していく中、私は将来どうやって音楽で生きていくのだろう、という漠然とした不安から目を背けたり、また向き合ったりしながら、音楽の力を信じて前向きに頑張っているところです。

Risako Idutsu

コーラス部や兎原祭実行委員など、幼稚園から中等卒業まで15年間の附属生活を謳歌。卒業後は京都市立芸術大学にて、声楽の道を進めるべく鍛錬を重ねている。



京都市立芸術大学は3年前にキャンパスを移転して、附属を思い出すような自然あふれる沓掛というところから、京都タワーを望む京都駅から徒歩5分の崇仁へ引っ越しをしました。「テラスのような大学」をテーマにした、芸大らしい素敵なキャンパスです。しかし困ったことに、練習室もテラス仕様のガラス張りです。プライベートがありません。変な発声練習をする姿も、練習中にスマホを見てさぼる姿も丸見えて、かなり辛いです。

ちょうど移転の年に、私は学園祭である芸祭の実行委員会でステージ局長を務めました。ほぼ兔原祭のアーリー局長です。大学移転のわずか1か月後の開催だったため、1カ月前にならないと開催場所を見ることができないという厳しい状況での運営でした。大変苦戦しましたが、新キャンパスでの芸祭の土台を作るという貴重な経験をすることができました。この困難を乗り越えら

れたのは、附属での兔原祭の経験があったからこそだと実感しています。

また、附属で取り組んだKPでの学びも、まさに今、大いに役立っています。学部の際は、卒業論文の代わりに卒業演奏がありました。12分大きなホールで一人で歌えたら卒業できる、というものでした。そのため学部生の時は文章を書く機会はほとんどなく、さすが京芸、と甘えて過ごしていました。しかし今は大学院生となった今、修士論文が襲ってきています。19世紀のイタリアオペラについて研究しているのですが、若杉先生から教わった問いの大切さを身に染みて感じながら、いまだ問いに悩み続けています。大学院を修了するためには修士論文だけではなく、修士演奏も必須で、40分程度歌い続けなければなりません。研究と演奏を両立し、なんとしても2年で修了したいものです。

将来自分がどのような道を歩むのか、自分でもわかりませんが、音楽に生き、歌に生きたいと強く願っています。そのために附属から始まった学びを振り返りながら、これからも一生学び続けようと思います。

末筆になりますが、この場をお借りして少し宣伝をさせていただきます。2027年2月19日(金)、京都市立芸術大学の堀場信吉記念ホールにて上演される、モーツァルト作曲のオペラ《フィガロの結婚》に伯爵夫人役で出演します。ご興味をお持ちの方がいらっしゃいましたらぜひ足をお運びいただけますと幸いです。

皆様の益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

東京同窓会のご厚意で歓迎会が開催される！

神戸大学附属中等教育学校10回生の池田響です。東京同窓会において10回生の幹事を務めさせていただいております。

この度、新たに東京へ生活拠点を移された12回生の歓迎会を、5月9日に渋谷にて開催いたしました。本歓迎会の開催にあたり、ご支援を賜りました東京同窓会の皆様に、心より感謝申し上げます。

当日は、10回生から12回生までの学生計16名が一堂に会し、昼食を囲みながら交流を深めました。また、東京近辺にお住まいのOBの先輩方にも6名ご参加いただきました。

東京という慣れない土地での生活が始まって約 2 か月が経とうとする中、懐かしい顔ぶれが集まったことで、当初の緊張も次第にほぐれ、大変和やかな歓迎会となりました。先輩・後輩の垣根を越えて交流を深めることができ、大変有意義な会になったと感じております。

今後も、新たな後輩たちが様々な期待や不安を抱えながら東京へやってくると思います。だからこ



そ、学年を超えたつながりがより一層重要になると考えております。今回築くことのできた縦のつながりを今後も大切にしながら、後輩たちが安心して新生活を送ることができるよう、10 回生として引き続き交流の場を設けていきたいと考えております。

改めまして、本歓迎会の開催にあたりご支援を賜りました東京同窓会の皆様に、心より御礼申し上げます。

～東京同窓会からのお知らせ～

毎年秋に開催されている神戸大学附属住吉東京同窓会の総会・懇親会が、10 月 31 日(土)に開催されます。附属住吉小・中学校を卒業された関東在住の卒業生を中心に 100 人近くが一堂に会する素敵な機会ですので、ご興味のある方は是非ご参加ください。

【日時】10 月 31 日(土) 12:00～14:20 【会場】レストランアラスカ 日本プレスセンター店

【参加方法】Google forms へご回答ください >> <https://forms.gle/6brQK5b5E8Gn35a59>

【編集後記】

4 月に慣れ親しんだ関西へ帰任するとともに、ついに 30 代に突入。中等在学時に想像していたような「大人」の姿に近付いていれば良いのですが…。

第 19 号にご登場いただいた 10 回生の脇阪さんに案内され、5 月に京都大学で開催された「東京大学 Warriors」vs「京都大学 Gangsters」のアメリカンフットボールの試合を観戦してきました。もちろん、Warriors で躍動されている脇阪さんには頑張っていたいただきたいのですが、いざ試合が始まると、やはり母校の応援に熱が入ります。そして、Gangsters が強い！ 終始 Warriors を圧倒し、見事東京大学を破りました。ライバル校に勝つ瞬間を目の当たりにして、非常に誇らしく感じました（あれ、まだ心が大学から卒業できていないかも？）。

6 月には、中等から京都大学に進学したメンバーで懇親会を開催しました。中等 10～12 回生から愉快的キャンパスライフの話をたくさん聴けて非常に楽しかったのですが、自分も学生に戻った感覚に陥ったイタイ社会人（＝私）が「哲学の道に行けば蛭が見られるかも」と言い出す始末。しかも、蛭が数匹しかおらず、想像していたような幻想的な光景には遭遇できませんでした。さらに、終電ギリギリとなり、結局みんなでタクシーに乗って京都河原町へ移動（ここで唯一、社会人らしさを発揮）。遅くまで付き合ってくれたうえ、「数匹でも蛭がいて良かったです」と先輩を立ててくれる 10～12 回生の皆さんの方がよっぽど大人でした。

これから暑くなりますので、年齢・学年に関わらず、皆さまご自愛くださいませ（1 回生小黑）。

（次号は 2026 年 9 月 30 日発行予定です）